

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101998		
法人名	社会福祉法人 イーストヘルスケアソサエティ		
事業所名	グループホーム スマイル		
所在地	岐阜県岐阜市芥見野畑1丁目25番地		
自己評価作成日	令和 5 年10月 18 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 5 月 2 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170101998-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和5年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルス感染症の分類が5類に移行されましたが、引き続き感染症対策を継続しています。入居者様には外出制限等ご理解を頂きながらサービスを提供しています。大きな行事は感染症対策の為に中止していましたが、開催出来るようになりました。季節を感じて頂きながら、楽しみが増えました。日々の生活の中では、入居者様お一人お一人のADL、個性等を見極め、出来る事に目を向け、出来る力を引き出す自立支援、認知症ケアを目標にサービスを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市内東部の閑静な住宅地近くに立地し、周りは、自然豊かな田園風景が広がる落ち着いた環境にあり、利用者はその中で四季を感じながら、ゆったり落ち着いた生活ができています。ホームは、保健・福祉・医療の複合的な事業展開を行っている医療法人・社会福祉法人グループを母体としており、地域の認知症ケアの拠点施設としての役割を担うとともに、地域の社会貢献活動にも積極的に参加し、地域交流を深めている。「人としての尊厳を守り、いきがいのある生活を支援します」という法人理念のもと、利用者一人ひとりの潜在力を引き出し、QOLを高める生活の支援に取り組んでいる。例えば、季節折々の掲示物や作品づくり、また、おやつ作りや日々の食事準備、片付けの手伝いへの参加、ベランダのプランターでジャガイモや小松菜等の野菜育て等の活動を支援している。また、コロナ禍の影響が続いている状況ではあるが、ホーム内で様々な行事を行ったりしている。ホームは、建物の4階に位置しており、周囲の自然の眺めが良く四季を感じ取れる。また、リビングは日当たりが良く、明るい。利用者同士が和調のソファに座り、日向ぼっこをして過ごしている様子が伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念のもと、グループホームとしてのチーム目標に取り組んでいる。会議等で共有・振り返りをし、日頃のケアに活かすよう努めている。	「人としての尊厳を守り、いきがいのある生活を支援します」という法人理念を踏まえて、毎年、ホームの目標設定をし、中間・年度末評価を行い、職員の意識付けを図っている。今年度の目標の中で、利用者のADLの維持、自立支援を掲げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域サロンへの参加、保育園児の来訪による交流をしているが、現在はコロナ感染症対策の為に中止している。散歩をしながら地域の方との交流や、職員は地域の用水路の草刈り等、地域貢献活動も行っている。	現在、コロナ感染症対策により、外部との行事は自粛しているものの、天候の良い日には、近隣の散歩を行い、地域の人々と交流をしている。また、職員は、地域の用水路の草刈り等の活動を通じて、地域の人々との関係を深めている。	地域の認知症ケアの拠点施設として、今後とも、感染症対策を行いつつ、認知症ケアの啓発活動や相談支援、防災訓練参加への呼びかけ等を通じて、さらなる交流活動の充実に向けた取り組みに期待したい。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。写真入りで日常の様子、行事、取り組みを報告し、委員さんから意見・要望をいただき、運営に活かしている。	運営推進会議を2ヶ月に1回、対面で開催し、市介護保険課や地域包括支援センター職員、自治会連合会長等、様々な立場から参加を得ている。写真入りのわかりやすい資料をもとに、ホーム運営の現状報告をしている。会議では利用料金や感染症対策、消防訓練等、様々な意見交換が行われている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からのコロナ対策対応や各種情報について提供を受けたり、運営の現状報告をすると共に助言を受け、連携を図っている。また、情報は職員で共有している。	行政の担当者や地域包括支援センターとは、顔の見える関係となっており、運営状況の報告や相談をしたり、情報提供や助言を得る等、円滑な連携関係ができています。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月実施される法人内の委員会に出席し事例検討や意見交流を行うと共に、年2回法人内研修で学んでいる。日中は玄関の施錠はせず、自由に出入りできるようにしている。行動の全てを危険と捉えず、日常生活を見守る支援を行っている。	身体拘束をしないケアについて、法人内で委員会を開催し、資料をもとに事例検討等の研修を行っている。ホームでは、日中は施錠をせず、見守りを行っている。センサーマットを使用する場合もあるが、行動の静止ではなく、早期に行動を把握することで、事故予防に努めている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連については正しく理解できるよう外部・法人内で学んでいる。虐待に対する自覚、認識に努めている。	虐待防止に関して法人内で研修を行う等して、職員の知識の向上、不適切ケア防止に取り組んでいる。また、外部研修を受講し、職員会議のなかで、伝達講習を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部・法人内研修・施設外研修で学び、その内容を介護で話し合っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にはホームの見学をしていただき入居予定者様・家族様の不安や疑問に答えている。(現状、写真や動画で案内している。)契約時には契約書・重要事項を説明し理解、納得を図っている。報酬改定時も家族に説明、話し合いを行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催し運営状況について報告、家族様の意見・要望を伺う機会としている。感染状況を検討し開催する予定ではあるが現状、開催出来ていない。電話や受診日に様子等を報告し、意見や要望を聞き、得た意見は職員間で共有。運営に活かしている。	来訪時や電話での現状報告の際等、機会をとらえて利用者・家族の意見の聞き取りに努めている。いただいた意見は、職員間で共有するとともに、ホーム運営の改善に活かしている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営会議・事業所会議にて職員からの意見を聞き、提案については、代表者・管理者は実現できるよう協力している。グループホーム会議では職員からの意見を聞き、提案については管理者他、実現できるよう協力している。	毎月、法人全体の経営会議やホームでの会議を開催しており、各種行事(夏祭りや干し柿作り等)やレクリエーション活動(季節の飾り絵や作品、習字)等の運営について話し合う中で、職員から出た意見については、ホームの活動に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	安心して働ける環境や条件の設備、研修に参加できる機会を設けている。半年に一度の面談を通じて、助言等行い職員が向上心を持って働ける環境に努めている。	年2回、職員面談を実施し、職員個々の意向や家庭状況等を聞き取り、有給消化率の向上や、積極的な研修参加を促す等、ワーク・ライフ・バランスに配慮した働きやすい就業環境の整備に取り組んでいる。また、退職した職員も再度復職し、キャリアを積める環境にある。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報提供をして、必要な研修への参加を促している。研修報告や勉強会も行っている。	外部研修情報を職員に提供するとともに、職員のスキルや状況、希望に応じて、研修に参加してもらい、復命研修として、参加後に、伝達講習を行い、職員間での共通理解を深めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者・職員は協議会を通じて同業者との交流を図りサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を一緒に過ごすことで日々の言動から想いを探り、寄添うことで関係性を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者様に寄り添い、傾聴の姿勢を大切にしている。言動・表情から思いや意向を読み取り、一人ひとりに合わせて支援できるよう努めている。	日々、利用者と支持的な姿勢で関わりを持ち、表情や言動を観察して意向把握に努めている。職員は日々の関わりで得た利用者の思いや意向について、日誌に記録するとともに、毎日の申し送りやミニ会議、毎月の定例会議で共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や家族の思いや意向、職員の気付きも取り入れ現状に合った計画書を作成している。定期的にモニタリングを実施し、計画書の見直しを行っている。状態に変化があった場合は、その都度見直しを行っている。	利用者や家族の思いや意向を踏まえ、医師や看護職、管理栄養士等の意見を聞いて職員間で話し合い、ニーズに即した介護計画を作成している。定期的にモニタリングを実施し、計画の見直しを行うとともに、身体の状態変化等で必要な場合には、随時見直しをしている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活での気づきや申し送り、連絡ノートで情報を共有している。グループ会議で個別処遇について検討し介護計画を見直し実践につなげている。	記録については業務ソフトを導入し、タブレットを活用して記入する等、ICT化を推進している。また、申し送りや連絡ノートで伝達を徹底させている。チーム目標として利用者が継続してできることを掲げ、記録を活かしながら、介護計画を見直している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、柔軟に対応できるよう心掛けている。通院時の送迎や、必要物品の購入も援助している。	グループ法人の系列病院の受診については、家族送迎が基本であるが、必要な場合には、職員同行や送迎の支援をしている。必要な生活用品は、予め、ホームで準備し、家族が持参しなくても購入できるよう配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	不定期だが、ボランティアの方に訪問により歌や踊り等を観賞し楽しんでいただいている。現在は感染症対策の為、中止している。近所の散歩で気分転換を図っている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は家族に付き添いをお願いし、家族も状態が把握できるようにしている。緊急時や病状により家族と相談し、職員が付き添いも行っている。受診後の状況についても、職員で共有している。	家族とのかかわりを大切にし、病院の定期的な受診については、家族に付き添いを依頼している。状況により必要な場合には、職員の付き添いも行っている。系列病院は総合病院であり、多くの診療科名を標榜しており、医療との密な連携体制ができています。このことが利用者・家族の安心につながっている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には安心して治療が受けられるよう病院関係者と情報交換や相談に努めている。また、早期に退院できるよう家族と相談を行っている。	入院時に、病院に情報提供している。入院中は病院関係者と連携し、円滑に退院調整が行えるように情報共有を図っている。退院前のカンファレンスでは、家族・職員も参加し、病院から退院に向けての情報をもらっている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に法人の方針を説明している。継続し医療行為が必要であれば、本人・家族の意向を踏まえ、今後の治療について確認している。重度化については、ニーズに適した施設を紹介し、利用者・家族の意向に沿った対応をしている。	医療法人・社会福祉法人のグループ法人であり、利用者ニーズに合わせて病院や特別養護老人ホーム等、様々な施設を総合的に事業展開しているので、重度化した場合には、利用者・家族の意向に沿って、本人の介護ニーズに合わせた施設に移行できるよう支援している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに協力病院・緊急連絡先を明記している。事業所内で勉強会を行い、法人内研修でも応急手当等の勉強会を定期的に行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人として年2回、昼夜を想定した防火訓練を実施し、職員は災害時の対応についての意識を高めている。緊急事態時に事業が継続出来るようBCP計画を策定し取り組んでいる。また、地域の避難施設になっており、備蓄も準備している。	防災訓練は年2回併設の特別養護老人ホームと協力して、合同で実施している。ホームには発電機があり、特別養護老人ホームの分も含めて、食糧や水、日用品等は、備蓄している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい生活が送れるよう自己決定しやすい支援に努めている。入浴・排泄等、日常的な場面でプライバシーを損ねないように配慮し対応している。	利用者の個性や生活スタイルを尊重する観点から、生活を支援するだけでなく、その人らしさを支えるために、手を出しすぎないように、ゆっくり待つような支援をしている。声かけはプライバシーに配慮しながら、トイレ時の確認等行っている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの生活スタイルや自己発言・自己決定を大切に支援している。信頼関係を築き思いや要望等ができる雰囲気作りに努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活歴や習慣を把握し、生活リズムを大切にしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の栄養管理士が献立をたてており、用意された食材を職員と共に調理している。準備から片づけまで役割を分担し協力して行っている。現状、感染症対策のためご飯と汁物、夕食1品を調理しているが他は厨房で行っている。行事食やおやつ作り、嗜好調査を行い食事が楽しみになるよう支援している。	半年に一度、管理栄養士が嗜好調査を行い、利用者の意向把握に努めている。利用者に協力してもらい、毎月、おやつを職員と作ったり、日々の食事準備や片付けに参加してもらっている。誕生日は、ケーキを提供したり、行事食として、様々な地域の郷土料理を提供している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や摂取量を記録している。月一回の体重測定の実施・記録を実施している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後の口腔ケアを声かけしている。不十分な方には見守り、必要時には一部介助し清潔を維持している。	歯科受診は家族対応を基本としている。起床時や毎食後の1日4回の口腔ケアを行い、誤嚥性肺炎等の予防に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりのパターンを把握し、さりげない声かけに心がけ、トイレ誘導を行っている。介助の必要な方は誘導し、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回を基本に入浴時間を設けている。利用者様の心身状況や希望に沿えるよう対応している。順番や入浴時間、別日にも入浴ができるよう配慮している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調を観察し、日中でも休息の必要な方には声かけをしている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の診察を受け服用していただいている。診察日には症状の変化を医師に報告し指示を受けている。薬情報はファイリングし職員が確認出来るようにし、変更時等は申し送りや連絡ノートに記載している。飲ませ忘れ、誤薬のないようチェック表に記録している。	受診時に症状を医師に伝え、投薬を確認している。薬の変更時には、連絡ノート、個人の記録、日誌等を用いて、職員間で申し送りして、誤薬防止に取り組むとともに、飲み忘れを防止するため、空袋も残している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作品作りなどの作業の中で一人一人、できそうな箇所積極的に参加していただいている。やりたい事・したい事等思いを引き出し、出来る限り実現できるよう取り組んでいる。整理整頓等、できる範囲で行ってもらい、できた事への自信、やりがいにつなげている。行事や行事食で楽しみのある生活を送れるよう支援している。	季節を感じる掲示物や作品づくりを、得意な職員が中心になり、利用者と一緒に楽しみながら支援している。できることを見つけ、増やし、継続して日課や習慣となるように支援している。利用者自身ができる活動を支援するとともに、役割を担ってもらうことで、生き生きとした生活が送れるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ等の計画をたて実施していたが、現状は感染症対策継続のため中止している。過ごしやすい気候の日には外に出て花壇の散策や外気に触れ気分転換を図っている。ベランダで家庭菜園をやっており、収穫後は衛生・安全面に留意し食べている。	現在もコロナ禍が継続しており、感染症対策で外出は中止しているが、今後は以前のように買い物やドライブ等、再開する予定である。天気の良い日は近所を散歩し、気分転換できるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金をお預かりし、施設で金銭管理を行っている。買い物時には自分で支払いができるよう支援している。現状は感染症対策において中止している。個人の嗜好に合わせた飲み物やお菓子類を家族の協力のもと差し入れてもらっており、利用者の楽しみにもなっている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を希望された時に援助している。手紙や年賀状を書いてもらっている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きの日当たりの良い共用スペースで、戸外の景色を見る事ができる。ベランダの野菜に水をやり、成長を楽しんでいる。季節を感じる作品を飾ったり、利用者様の作品を飾っている。室内の温度調節や換気を随時行っている。	ユニットの共用部分に畳調のソファが設置され、日向ぼっこする等の、寛ぐ場所がある。ユニット空間は日当たりが良く明るい。建物の4階に位置しているため、山々や田畑等の眺めが良い。壁面には習字や季節感のある貼り絵が飾られている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはテレビ・カラオケの設備があり、談話スペースも設け利用者同士の交流や自由に過ごす時間がある。移動には十分な広さを確保し、自由に利用できるようにしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の生活スタイルに合わせ、使い慣れた家具や調度品を置いている。テレビや冷蔵庫を置き、作品や写真を飾る事で居心地よく過ごせるようにしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口は分かりやすいように色分けされている。自立した生活が送れるよう居室の環境は本人の生活スタイルを大切にしている。		